健康科学大学看護学部の誘致を決定
―開校は、平成28年４月を予定―

■山梨県立桂高等学校

山梨県立谷村工業高等学校と山梨県立桂高等学校の統合再編に伴い、平成26年度末をもって使用が終了する桂高校の跡地について、本市では4年制の看護師養成系大学、学部又は学科を誘致することとしていましたが、このたび、富士河口湖町にて健康科学大学を運営する学校法人富士修紅学院を事業候補者として決定し、同大学の看護学部のキャンパスとして利活用していくことが決まりました。

今後、平成28年4月の開校に向けて、本市としても協力していくこととします。

■看護系大学等誘致事業の趣旨

本市は、この規模の都市では、全国唯一と言える公立大学法人都留文科大学を設置し、保育所・幼稚園から大学院まで、すべての教育的機関が整うとともに、文化施設、体育施設などの教育インフラが充実しているまちです。

また、市民と学生が集い、学問や文化・芸術・体育が融合した学園のまちとして、「教育首都つる」というブランドの確立に努め、学校教育や生涯学習はもとより、まちづくり全般にわたり都留文科大学を中核とした知的資源を活用したまちづくりを進めています。

この「教育首都つる」の実現に向けては「学生人口の拡大」を目指し、手法については新たな教育機関を設置することを検討してきました。

こうした中、桂高校の跡地について、本市は、4年制の看護系大学等を誘致することとし、昨年11月から事業者を募集してきました。

■看護系大学等を誘致することのメリット

・本市が進める「教育首都つる」の推進施策でもある「学生人口の拡大」が実現できるとともに、学生や教員などの消費活動による地域経済の活性化も期待できます。

・大学は自らが持つ知的・人的資源を活用して地域に貢献する責務を有しており、看護系大学等の場合、地域の保健医療福祉活動に大きな役割を果たすことが期待できます。

・本市への看護系大学等の開設は、県政課題でもある「看護師養成と地元定着率の向上」に大きく貢献します。特に、看護師が不足する富士・東部医療圏への看護師就業者数の向上に直接結び付くものです。

・看護師養成は、少子高齢化による人口減少社会においても唯一の成長分野ともいえる学問分野であるため、入学志願者数や就職の安定性も見込まれます。

■富士修紅学院及び健康科学大学の概要

富士修紅学院は、富士河口湖町にて健康科学大学、岩手県一関市にて修紅短期大学、一関修紅高等学校及び修紅短期大学附属幼稚園を運営し、法人本部を健康科学大学内に置いています。

健康科学大学は、平成15年に開校し、健康科学部に理学療法学科、作業療法学科及び福祉心理学科の３学科を置き、現在は約８００人の学生が在籍しています。

■健康科学大学看護学部の概要

学校法人富士修紅学院が開校を目指す健康科学大学看護学部の概要は次のとおりです。

・看護分野における専門職の育成を基本とし、豊かな人間性と看護実践能力を身に着け、地域社会の医療、保健・福祉活動を広く理解し、地域の諸問題に対する研究・発展に貢献できる人材を育成します。

・修業年限は４年とし、学年定員は80人（収容定員３２０人）とします。

・取得できる資格は、看護師、保健師及び養護教諭一種免許とします。

・桂高校２号館、体育館及び桂晟文化創造館を本市から賃借して利用し、不足する分は新たに校舎２棟を整備して対応します。

・都留市の掲げる「教育首都つる」の推進や山梨県の掲げる看護師地元定着率の向上といった政策に寄与します。

・将来にわたり地域の看護師等の医療福祉系の人材育成に努めていくとともに、地域との交流や市政への協力を通して「知の拠点」としての役割と貢献を果たしていきます。

■富士河口湖町の健康科学大学キャンパス

■今後の展望

市内では、谷村工業高校と桂高校が統合再編され、平成26年４月から県下最大の総合制高校として生まれ変わることが既に決定しています。また、この４月には、その隣接地に山梨県立産業技術短期大学校都留キャンパスが開校しました。

これに、平成28年４月から学部単独とはいえ医療福祉系大学の学部が開設されることになれば、都留文科大学とも相まって次代を担う多彩な若者たちが集い学ぶ「教育首都つる」として、一層の充実と活性化が図られるものと期待しています。

■2月26日、小笹林市長から長本憲男理事長あてに、事業候補者選定通知書を手渡しました。

Tsuru Topics

都留市文化会館がリニューアル！
名称も新たに、「都留市まちづくり交流センター」となりました！

昨年の７月上旬より進めて来ました、都留市文化会館の耐震補強並びに大規模改修工事が終了しました。

名称は、従来の「都留市文化会館」から、「都留市まちづくり交流センター」と変更し、まちづくりと生涯学習に関する拠点施設として生まれ変わることとなります。

１階には、事務室や会議室のほか、ファミリー・サポート・センター、和室、幼児室、授乳室を備えた「交流室」が設けられ、市民活動支援センターも移転しました。また、２階と３階が市立図書館となり、従来の「情報未来館」は、図書館の情報部門として組み入れられることとなりました。このほか、「おはなしコーナー」も設け、様々なおはなし会やイベントを開催していく予定となっています。

このまちづくり交流センターの詳細につきましては、来月号の広報つるにおいてご紹介をしていきたいと思います。

■都留市文化会館がリニューアルして「都留市まちづくり交流センター」となりました。外壁の色も落ち着いた感じとなっています。来月号では、内部のご紹介をしたいと思います。

■これまでの経過

年　月	内　容
平成21年10月	山梨県教育委員会が、谷村工業高校と桂高校を統合し、現在の谷村工業高校の敷地に新たな高等学校を開校する高校統合再編案を提示
平成23年10月	高校統合再編案及び桂高校校舎耐震化に関し、本市は地元と県教育委員会とが協議する場として「都留市における高校再編整備を協議する会」（以下「協議する会」といいます。）を開催
11月	第４回協議する会において、本市が両校の統合再編の条件として提示した調停案を両者が容認し、東部地域における高校再編問題は統合という形で決着
12月	調停案のうち「桂高校の耐震化される校舎及び敷地を教育エリアとして活用する。」ことに関し、本市では、有識者や教育関係者による「県立桂高等学校跡地利活用に関する検討有識者会議」（以下「有識者会議」といいます。）を設置し、検討
平成24年３月	有識者会議は、「看護師養成系の高等教育機関を設置することとし、その手法については、都留市において開設する場合と、誘致により開設する場合を想定し、双方の可能性を探り決定すべき」との提言を市長に提出
９月	本市は、再編後の桂高校跡地へは「４年制の看護系大学等を誘致」することとし、その事業者選定にあたって「公募制」を採用することを決定
11月	看護系大学等誘致事業の事業候補者募集要項を公表し、公募を開始
平成25年１月	募集の応募受付を終了（１事業者から応募）
２月	有識者からなる看護系大学等誘致事業候補者選定委員会（以下「選定委員会」という。）に対し、応募のあった事業者の適格性を諮問
	選定委員会からの答申を尊重するとともに、本市でも審査した結果、富士修紅学院を事業候補者として決定